

## 情報化と地域経済をめぐる論点

慶應義塾大学 國領二郎

### 1. 通信インフラストラクチャの状況

#### 1.1 総論

- 電話網加入は純減を始めた。ADSLに代表されるインターネットサービスが爆発的な伸び。携帯電話も鈍ったとはいえ、高い伸びを維持している。インターネットは電話よりもはるかに安いコスト構造をしており、提供価格も安い。通話サービスも開始されつつあり、全世界どこでも3分10円を切る、といったサービスとなる。
- 流れにどう対応するか？

#### 1.2 基幹網

- IX(internet exchange)の立地。インターネットトラフィックの交差点との近さがデータセンタなど情報関連産業の立地の要因となる。日本国内にだけ目を向けると北海道は袋小路の奥にあたり圧倒的に不利。
- 北太平洋という視点は取れるか。取れば北アジアの通信基地となれる？
- 公衆網における料金的な遠近格差の縮小。どんな影響が出るか？

#### 1.3 地域網

- アクセス網における地域間格差が課題となっている(ADSLの普及、インターネットの普及、パソコン普及率)。IT戦略会議のブロードバンド化目標を達成できるのか？
- NTTによるユニバーサルサービスが当面想定されている(IT革命を推進するための電気通信事業における競争政策の在り方についての第二次答申草案情報通信審議会IT競争政策特別部会平成13年12月)。しかし、地域網における競争の進展によって風前の灯火である。遠くない将来、NTTがサービスを提供しない地域が現れることも想定しなくてはならない。少なくともブロードバンドサービスは提供されない可能性大。
- 地域による独自の取り組みが必要となつてこよう。ユニバーサルファンド適格事業者によってサービス提供の方向へ。Community Area Networkの発想。
- 無線、CATVなど従来とは異なる通信手段が可能。電力インフラなども利用可能。

## 2. 情報産業の状況

### 2.1 総論

- 過大な期待に対する反動で現在在庫調整の大波が来ている。
- 調整が終わると底にはまだかなり高い成長力をもった産業があると見るべき。セグメントによっては調整が終盤になっているようだ。

### 2.1 北海道の情報技術関連産業

- 北大を中心とした産業などがかつて勃興。VoIP 技術などを保有する企業やゲームソフト産業などがある。いまでも一定の勢力を保っているが新規開業は不活発である。
- 全国的に考えても京都などで新規開業が従来よりも不活発であるなど、東京への一極集中が懸念されている。北海道内でも札幌に集中している。

## 3. 情報技術利用の状況

- 個人向け 高くない普及率。デジタルデバイドが深刻化。
- 産業用 生鮮食料品などのネットワーク化は進展。しかし物流ネットワークもそろわないと意味がない。

## 4. まとめ - 将来に向けて -

- 常識的に考えると悪い要素がそろっている。
- 固定観念を突破した発想で弱みを強みに転換できるか？
  - 北太平洋の情報センターを目指す。IXも需要がないと誘致できない。
  - 従来の電話網以外による基盤インフラ。電話よりはるかに安価なインターネット網に緊急通信機能を付加したサービスを地域で提供するモデルケースを作る。
  - 早期に技術的 制度的実験を行うパイロットプロジェクトを実施してはどうだろうか？
- 情報産業も内向き指向 (北海道内、日本国内) から脱却し、よりグローバルに産業の強みを開拓していかなければならない。フィンランドのノキア、インドのバンガロールなどのグローバル性に見習う
- 一方で地域における自立的かつきめ細かな対応が必要となってくる。